

## 令和7年度第1回安芸地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和7年10月29日(水) 14:00～15:45

場所：安芸総合庁舎2階 大会議室

出席：委員24名中、20名が出席（代理出席3名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）安芸地域アクションプランの進捗状況等について

2）安芸地域アクションプランの修正（予定項目）について

（3）産業成長戦略について

産業別若者所得向上検討チーム報告書について

議事（1）～（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）安芸地域アクションプランの進捗状況等について

2）安芸地域アクションプランの修正（予定項目）について

(No.1 「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化)

(小松(藤)委員)

ユズは、安芸地域が全国一の生産面積と出荷量を誇っている。有機に取り組んでいるのは馬路村だけではなく、安田町の中山地域も取り組んでいる。ただ、有機のJAS規格を取得しないと有機やオーガニックと書くことができない。国は有機農業を率先して進めていくとしているが、現状どこまで有機と表示してよいのか、どこが線引きなのかを県に伺いたい。

(山中地域産業振興監)

即答できないのでお時間をいただきたい。

(No.7 安芸市中心市街地の活性化)

(長崎委員)

道の駅や加工品の売上額などは、目標設定を高くしている。東部は、他にそういったところが少ないので、道の駅の運営や商品充実について、まだまだ伸びしろがあると感じている。

安芸市中心市街地の活性化に関連して、安芸市、中芸地域は田野町、室戸市に高校があるが、高校生の居場所を商店街の中に作るなどといった考え方はないか。そういったところか

ら新たな活性化の発想が出てくるのではないか。

(井上 (一) 委員)

安芸市では高校生が活性化の推進に不可欠であり、貴重な戦力である。また、次期世代の人材育成という面から、商工会議所や商店街、安芸市中心商店街等振興計画のメンバー等、様々な方向から関わっている。具体的には、商店街で高校生が「きさらぎ市」を行ったり、商い甲子園へボランティアとして参加する等、日常的に協働している。

その中で、安芸市商工会議所では、青年部が高校生と商店街の活性化について事業として取り組んだり、部活動へのバックアップを行う等しており、日々の活動について感謝状をお渡ししたりしている。このような日常での協働が大きなポイントだ。

また、こういった活動が一部の人にしか知られていない状況だったため、それを少しでも解決するための情報共有の場として「たまり場」は大きな意義がある。そこには、商工会議所、商店主、ときには高校生や学校の先生、地域おこし協力隊等、いろいろな方が集まって話をしている。これが情報共有や発信の場として良い効果を生んでいると感じている。

今後の課題は、移住促進や商店街での起業等、総合的に引き受け、総合的に返していける団体、企業等の機関をつくること、一番のポイントになると思っている。

(No.13 安芸地域の観光振興の推進)

(西邨委員)

高知東部自動車道の延伸により交通の利便性が向上する一方で、高知市内からの日帰り観光が容易になり、安芸地域内での周遊性が低下とあるが、利便性が良くなれば、逆に周遊が増えそうに思う。低下の原因は大型宿泊施設の減少なのか、宿泊数が確保できればどのような伸び方をするか等、今後どのような展開になると考えているか。宿泊施設がないのが原因と考えているのであれば、どのような対策を考えているかお聞かせいただきたい。

(山中地域産業振興監)

宿泊施設が少なく、受入れのキャパシティが少ないことが滞在時間が伸びない原因と考えている。民泊や旅館などを起業されている方もいるので、そういった形で増やしていくことが大事だと考える。また、県の企業誘致プロジェクトチームでも、宿泊施設の誘致について議論が始まっているので、市町村と一体となって進めていきたい。

(長崎委員)

宿泊を伴う観光客を誘客しようと考えたとき、どのようなことを手がけていけばいいのか。安芸地域のアクションプランについて1つ1つの案件に色々な課題があるのはわかるが、結局はこの安芸地域に人とモノの流れを持ち込みたいというのが大きな目的だと思う。誘客するには何が足りないのか、宿泊施設の誘致が難しければ、通過型観光の強化によりお金を落としてもらうようにしたらよいか、通過型観光であれば特産店等の強化を図っていくのか、どのように産業を盛り上げていくのか、総合的に見てどこが弱いのか等、そういった分析をしていただきたい。

(山中地域産業振興監)

ポテンシャルの高い観光地があると思うが、情報発信があまりできていないのではないかなと思う。発信を工夫することで誘客につながるのではないかな。また、民泊や個人旅行に力を入れているので、そういったことに地道に取り組んでいけば、徐々に増えていくのではないかなと考える。

(長崎委員)

東洋町は小さい民宿等がある。サーファーやお遍路さんなどを対象に展開しており、需要がある。それぞれの経営の仕方もあるだろうが、日帰りではなく泊まっていただけの仕組みが安芸地域全体であればと思う。

(井上(有)委員)

今年の3月から奈半利町でゲストハウス6室の旅館を開業した。半年経過したが、連日満室であり、東部の宿泊のキャパシティが不足していると日々実感している。恐らく客室を増やせば宿泊してもらえる状況にあるので、小さい規模の古民家や地域の空き家活用にもつながる分散型開発しかないと思っている。大規模施設の誘致は、立地の問題や高騰している建築費の問題があり、新築で建てることに投資する方がいるかどうか。また、大型にすると多くのスタッフが必要となり、確保が難しい。私の旅館は奈半利町の飲食店を利用してもらう泊食分離を行っており、東部地域ではこういった分散型が合っていると思う。小さい規模であっても初期投資が必要であり、自分も補助金等がなく大変だった。ハード面に使える補助金等の支援メニューが少ないので、分散型の小規模宿泊施設の改修等に使える、支援等があればいいと思う。

(小松(圭)委員)

限界集落で2室、最大定員8名の宿を運営しており、年間750人から900人ほど宿泊いただいている。9割以上が県外の方で目的は土佐ジローである。

また、安芸商工会議所女性会会長をしており、安芸市内で高知県内の商工会議所女性会の総会をしたいが、受け入れできる施設がなくなり、大規模な行事の受入れ場の確保が難しくなっている。普段から大きい施設が営業できるような人口減少対策や観光政策が展開されることを望む。

(山中地域産業振興監)

企業誘致プロジェクトチームでは、宿泊施設の誘致に関する補助金の検討もしているので、今後どうなるかわからないが、そういったことを活用して展開していければと思う。

(No.1 「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化)

(山崎委員)

ユズの関係で馬路村が最初の「オーガニックビレッジ宣言」をしたが、JAS認定を受けた有機農家は少なく、ほとんどが有機に準じた栽培方法で栽培しているというのが実態だ。化学肥料を使わない、除草剤を使わないので、草刈りが大変だが、農家の皆さんが一生懸命、年に四、五回草刈をしており、その努力に何としても報いたいということで、村全体で、オー

ガニックビレッジ宣言をし、ユズの販路等いろいろなことにつなげたいと頑張っている。

また、海外へユズを販売しており、この前はアブダビに行っていた。世界ではオーガニックが当たり前となっている。担当は、海外の仕様に合わせたものを海外で加工するのが販路拡大につながるのではないかと言っていた。中東はハラールがあり、成功しているものは海外でニーズに合わせた製造をしている。対外戦略でしっかり稼ぐには、そういったことが必要だとも言っていた。

(木下委員)

馬路村農協では JAS 認証ではなく、基本的に有機農業を行っている。農林水産省も有機面積を拡大しようとしているので、有機栽培を広めていこうというのが基本的な国の施策だと思う。

海外展開について、工場は1カ所ハラール認証を取得しており、「ごっくん馬路村」が出荷可能だ。ポン酢については、動物性の材料を使っているため、ハラールの対象外となる。海外に工場を作るのが手っ取り早いですが、その後の管理をどうするかという問題がある。原料と人を送って管理するにはどのように取り組んでいけば良いかといった問題や、レシピの問題が出てくる。馬路村農協としては、ユズの風味を残しながら販売したいので、賞味期限をポン酢についてはおおよそ6カ月、ジュースについてはおおよそ3カ月としている。この商品を海外へ出荷するとなると、遮光性の高い缶やアルミ製のパウチに変更することにより賞味期限を伸ばすことなど模索すれば、ニーズがある商品を国内の工場の中で製造できると考えている。

ただし、原料となる有機農業で栽培したユズがどこまで確保できるのかという問題があるので、販売先を決めて、付加価値を上げながら行っていきたい。

(西内座長)

私も以前農業をしていたとき JFS 規格認証を取得した。現在取得しているところが少ないが、求めている企業もいるので、販売上有利になる。

(No.10 道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み)

(坂本委員)

田野駅屋について、後々のランニングコストや立地、規模も含めて再検討している。建物を建て替えるか、町内にある重複施設をどうするか、どういう形で運営していくのか、生産者が高齢化する中で、田野町産をどこまでにするのかといったことを検討している。また、スマートフォンの位置情報データ分析を活用したニーズ調査を行い、多くのリピーターを大事にしながら検討を進めている。

(No.14 日本遺産を活用した中芸地域の活性化)

(黒岩委員)

令和9年度に中芸地域で日本遺産サミットの開催が予定されている。これを機に県外の方に来てもらうため、東部をPRしていきたい。ここでも宿泊施設の不足が問題となっている。今後、実行委員会を作って進めていくので、東部地域の皆様のお力を借りたい。

(西内座長)

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会の事務局長が来ているので何か補足があればお願いしたい。

(中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 中嶋事務局長)

2年後の開催に向けて会場や宿泊施設が課題だ。中芸地域だからこそできるイベントにしていくことにより成功させたいので、皆さんの協力をお願いしたい。

(No.7 安芸市中心市街地の活性化)

(西内座長)

「たまり場」に3年ほど参加している。そこには、いろいろな地域の情報が集まってきて、皆で協力して、それを拡散していこうという話がある。たまり場等と連携して、市として何かやりたい人を積極的にサポートし、先行事例になっていただいて、それを広げていく動きがこれから必要ではないかと思っている。そういったことに関しても事業化をしていきたいなどと思っている。

(No.13 安芸地域の観光振興の推進)

(No.15 室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興)

(黒岩氏 (植田委員代理))

室戸市では宿泊施設が3つ閉鎖になり、現在、1件の誘致活動をしているところだ。市がどこまで支援できるかが課題となっている。室戸岬の観光客数が減っているのではないかとの声があり、室戸岬に観光拠点施設の整備を進めている。

(No.3 芸西村の白玉糖を活用した地域活性化)

(松本委員)

芸西村では独自の特産品がないため、集落活動センターげいせいで白玉糖の加工品を作っている。ただ、現状については、さとうきびの作付け面積が減ってきており、現場の作業員も高齢化している。いかに若い人につなぐかが課題。村としても協力して特産品と認識してもらえるようにしたい。

(No.19 北川村観光3施設を核とした交流人口の拡大)

(No.13 安芸地域の観光振興の推進)

(岡宗氏 (上村委員代理))

モネの庭について、入園者数は目標達成しているが、経営状況は人件費や物価高騰などにより厳しい状況。また、コンセプトなどの情報発信が弱いこと、台湾からの観光客が多く来ていたがインバウンド対応が弱いことなど、多くの課題がある。開園30周年に向け、そういった課題対応も含めバージョンアップしていくために、外部人材の活用も含めた産業振興計画の支援制度を活用していきたいと考えている。資料だけ見ると指標が入園者数となっているためA評価となっており、支援の必要はないのではないかとと思われるだろうが、そういった課題も踏まえて支援の必要性を検討していただきたい。また、安芸県域で滞在型観光を進める一つの起点となる施設だと思うので、ぜひとも支援をお願いしたい。

(No.9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進)

(竹崎委員)

奈半利町には空き家を活用した宿泊施設として、「朔」や「junos (ユノス)」がある。また、旧加領郷小学校の利活用にあたり一定の宿泊機能を持たず構想がある。特に子供たちがいろいろな体験できるような施設にしていくことが一つの柱。町内だけでは観光資源や体験がまかなえないので、安芸地域全体でご協力いただかなければならないと思っている。

宮城県石巻市の「MORIUMIUS」の運営方法をモデルにして検討していきたい。

(3) 産業成長戦略について

産業別若者所得向上検討チーム報告書について

意見交換等、特になし。

(以上)